



土岐市	教育研究所
TEL	0572-54-1111 (内374)
FAX	0572-55-6310
メールアドレス	kyoiku@city.toki.lg.jp
所報	No. 583
発行責任者	所長 西尾 実
発行日	令和7年 9月 15日
題字	長谷川 広和 教育長



撮影 妻木小学校
伊藤 勝教 教頭

『味わう土の感触
〜ろくろ体験〜』

「全力で勝負に向かう運動会に」

土岐市教育研究所長 西尾 実

運動会のシーズンがやってきました。前期の集大成である運動会は、学級の大きな節目です。また、1年で最も連帯感を強く求める時でもあり、先生方にとって、当日までの取組期間は奮闘の毎日でしょう。子どもが夢中になって取り組む行事だからこそ、勝利に向かってみんなで一つになる瞬間を味わわせたいと思います。体育的行事は、体力の向上を目指しながら、学年に応じて勝敗を受け入れる態度の育成も大切な側面です。どの学年の先生も、担任として、勝負に負けた時の子どもにかかる言葉はとても悩みます。当日、子どもに話す先生の言葉は、敗戦の弁でなく、心のこもった言葉であってほしいものです。

当然のことですが、勝者は少数で、多くは負けます。勝ち負けにこだわると言う悪く聞こえるかもしれませんが、勝敗に本気で向かう中で、子どもは多くを学び、行事を終えると見違えるように大きく成長するものです。また、勝った事より、むしろ負けた事に、意味ある学びがあると私は思います。努力が必ずしも勝利に結びつくとは限らず、負けという現実に向き合うことができる絶好のチャンスが運動会です。勝敗を競う側面があるからこそ、敗者にはつらい結果をもたらします。競争原理は序列化や差別意識を生み出すので、このような競技の中で勝敗を正しく受け止め、相手意識を指導することが大切です。本気で勝負して、悔しい気持ちや負ける経験を通して自分を知り、客観的な

評価を受け止めて、社会で生き抜いていくために必要な心の強さも身に付けていくものだと思います。

一方で、コロナ禍を機に、多くの学校で運動会の縮小が進みました。学校行事の精選や教員の働き方改革により、行事の負担軽減が進んでいます。それとともに、徒競走のような競争的要素の強い種目は取り除かれる風潮も広がっているように感じます。競技種目排除は、結果を不可視化しているに過ぎないという見方もあります。得点をつけない、順位を決めない学校行事に関しては、コロナ禍以前からたびたび議論されてきました。子どもに困難を感じさせないように配慮することは大事ですが、徒競走で順位をつけないことは過度な配慮であり、子どもの成長の機会を奪っていると思えます。

元プロ野球の名将、野村克也監督は、「失敗と書いて成長と読む」と言いました。失敗や挫折を経験することで、初めて自分の間違いや至らなさに気づき、反省し、改善策を考えることができると説きました。

負けたその日の学級の時間と翌日の朝の会は、子どもたちにとって、その後の成長を占うとても大切な時間です。担任の先生の心のこもった言葉は、子どもが困難を乗り越えて、一つずつたくましさを身につけるきっかけになってくれるはずで、担任の先生とともに全力で勝負に向かう運動会であることを願っています。



学びの連続性

泉西小学校長
有賀 雅美

泉西小学校区は、文部科学省と岐阜県教育委員会から、令和4年度より3年間、「幼保小の架け橋プログラム」の研究指定を受け、久尻こども園と泉西小附属幼稚園、泉西小学校で連携を図り、取り組んできました。

私が泉西小に赴任したのは、3年目の令和6年4月でした。赴任した当初はまだ、校区における取組内容を十分に理解していませんでしたが、新1年生の様子や今まで経験した1年生と、あきらかに違っていました。子どもたちが、入学当初から、みんなの前で発表することに抵抗感が少なく、大きな声で発表したり、スムーズにペアやグループで話し合ったりできるのです。それは、指定を受けた1年目に、校区としてどんな力を付けたいかを話し合い、「言葉による伝え合い」を重点にして取り組んできた成果だとわかりました。そのおかげか、全体に学校生活に慣れるのが早く、登校しぶりがほとんどみられません。保幼小連携の成果をはじめから強く感じ、「架け橋プログラム」の取組に俄然、意欲が湧いたことを覚えています。

3年間の取組内容と成果は次の通りです。

○がやがや会議の実施



幼保小合同の会議として、定期的に「がやがや会議」を開き、管理職や担任同士が顔を突き合わせ、まさしくがやがやと意見交流をしてきました。

会議の後に担任が残り、子どもたちの様子を熱心に交流する姿も見られました。職員同士がつながり、気軽に話ができるようになったことが大きな成果の一つです。

○「接続期マップ」「連携のあしあと」の作成

5歳児から小学校第1学年の「架け橋期」における「言葉による伝え合い」に関わる題材・単元を整理した「接続期マップ」や取組の連携をまとめた「連携のあしあと」を作成し、実践に活用するとともに内容の検討や修正を重ねました。これは連携を持続化するためにたいへん有効でした。

○G o t o西小ミックスの実施



「G o t o西小ミックス」と称し、久尻こども園と泉西小附属幼稚園の5歳児を同時に招き、1年生と交流する機会を年に3回位置付けてきました。学校案内やおもちゃランドへの招待などです。何度も小学校で活動することで、学校に対する不安を取り除くことができ、小学校への円滑な接続が小1プロブレムの解消につながっています。小学生との交流で、園児が小学校によりイメージをもち、学校生活を楽しみにしている様子が見受けられました。また、二つの園の子どもたちの交流の場にもなっているので、保護者から「園が違っても、入学してからすぐに打ちとけられてよかった。」と喜びの声が聞こえてきました。



このような「架け橋プログラム」の取組により、職員の意識が大きく変容しました。1年生担任は、小学校でゼロから指導するという意識から、園で育ててきた力をさらに伸ばしていくという意識に変わりました。園での経験を想起させてから、小学校の生活や授業につなげることで、児童の主体的な活動を生み出しています。他学年の職員も徐々に意識が高まり、運動会やミュージカルの取組などで、交流の機会をもつようになりました。



今年度は、研究指定から外れましたが、子どもの姿として成果を感じているので、今後も持続可能なものになりたいと考え、取組を続けています。子どもの学びは、連続しています。そのことを念頭に入れ、今後も幼保小や小中との接続を図っていくことと、小学校の6年間でも、学びの連続性を意識した指導を大事にしたいと考えています。

【こども園教育の紹介】

子どもも保育教諭も 生き生きと遊ぶ 濃南こども園

濃南こども園 高橋華奈江

本園では、園目標『生き生きと遊ぶ子』の育成を目指しています。特に、子ども達が自分のしたい遊びを見つけ、繰り返し活動できるよう、異年齢児と一緒に戸外遊びを楽しむ「なかよし遊び」の充実を図っています。

「なかよし遊び」の充実のために、下記の3点を話し合いの基とし、職員で共有することを大切にしています。

- ① 子どもの興味関心を捉え、“子どもが遊びの中で何を楽しんでいるのか”をつかむ。
- ② 遊びに“ねらい”“願い”をもつ。
- ③ そのために必要な環境構成や具体的援助を考える。

そして、その遊びがもっと楽しくなるための保育教諭の声掛けや環境作りをしていくには、保育教諭自身が子ども達の仲間になり、一緒になって遊びを楽しむことが何より大切だと考えています。

また、友達や保育教諭と共感し合う機会を大切に、興味関心の捉えをクラス・全体活動につなげています。

【なかよし遊び ～4歳児色水遊びより～】

プランターから花びらを摘み、色水遊びをしました。繰り返し試す中で、色の濃さや混色の面白さに気付いています。色水をジュースに見立てた、ごっこ遊びも楽しみました。

もっと濃い色にしたいな

パンジーの色で、においが違うね



繰り返し試したい確かめたい

遊びが継続するよう、保育教諭も一緒になってじっくりと遊んだり、色水遊びに参加しない子の思いや興味を受け止めつつ、どうしたら興味もてるか考えたりしながら援助してきました。

【クラス・全体活動「ジュース屋さん」へ 7月】

色水作りを継続しつつ、色水を使って遊びたい思いも融合させジュース屋さんが始まりました。他の学年のお店屋さんと交流したり、「夏のお楽しみ会」に地域の方を園に招待したりして、お客さんに来てもらえることが何より嬉しい活動になりました。

メニュー表がほしい！

ジュースの他にもドーナツ作ろうよ



友達と共通のイメージをもって楽しむ

友達や保育教諭と一緒にやり取りすることを楽しみながら、みんなでイメージをもって遊びを楽しんでほしいという願いをもち、保育教諭自身がお店屋さんになりきったり、子ども達のアイデアを基に一緒に道具作りをしたりしてきました。子ども達だけでは遊びがまとまらない時は、遊びをもっと面白くするために、役割やルールを提案することも手立てとしました。

今後も、「なかよし遊び」を基盤とし、子ども達の楽しんでいることに気持ちを寄せながら、遊びが楽しくなるにはどうしたらいいか感じ、一人一人の育ちにつなげていきたいです。

令和7年度 課題解決委員会 活動方針 取組等について

土岐市立西陵中学校 小栗 寛道

1 目的

土岐市の学校教育方針と重点に基づき、児童生徒の体力向上に関する課題解決を目指し、以下の活動を行う。

- (1) 児童生徒の体力向上に関する現状と課題を分析する。
- (2) 効果的な体力向上プログラムを企画・開発し、市内小中学校へ普及する。
- (3) 学校における体力向上活動を支援する具体的な方策を検討する。
- (4) 教育研究所の「運動好きな子ども育成事業」に協力し、児童生徒の運動習慣を促進する。

2 構成員

顧問校長 駄知小 清本 直子
課題解決委員 土岐津小 馬場 悠輔
泉小 松田 絵梨沙
西陵中 小栗 寛道
泉中 山越 栞奈

3 研究内容

- ・土岐市の学校教育【方針と重点】の具現化に向けた方策検討
- ・全国体力運動能力、運動調査の結果分析
- ・児童生徒の興味関心を高め、継続的な運動習慣を促すプログラムの立案・実施
- ・授業記録(実践)等を中心とした広報活動
- ・ACP(アクティブ・チャイルド・プログラム)を活用した効果的な指導方法の立案、研修会等での提案
- ・体力向上に力を入れている学校やスポーツ施設の視察
- ・児童生徒能力開花応援事業「運動能力パワーアップ講座」の講師協力

4 土岐市小中学校の体育授業と運動機会の実態

【令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣調査】

中学校生徒質問紙集計より

・「保健体育の授業は楽しいですか」

		楽しい	やや楽しい	合計
男子	全国	57.4%	34.3%	91.7%
	土岐	58.8%	31.9%	90.7%
女子	全国	39.5%	44.3%	83.8%
	土岐	40.7%	45.9%	86.6%

・「保健体育の授業で友達と助け合ったり教え合ったりして学習することで『できたり分かったり』することがありますか。」

		ある	だいたいある	合計
男子	全国	41.1%	48.3%	89.4%
	土岐	54.1%	36.7%	90.7%
女子	全国	37.7%	52.0%	89.7%
	土岐	51.8%	40.2%	92.0%

・体育授業以外での、体力・運動能力に係る取組

	1. 全ての生徒に対して行った	2. 一部の学年の生徒に対して行った	3. 行っていない
全国	43.5%	10.3%	46.2%
岐阜県	42.0%	8.0%	50.0%
土岐市	33.3%	16.7%	50.0%

以上のことから土岐市の中学生は体育授業を楽しんでいると肯定的に捉え、仲間と関わり合いながら授業に臨むことができているといえる。一方、体育授業以外では、体力・運動能力に係る学校の取り組みが取組が不十分であることがわかった。

また小学生の質問紙において、全国平均から大きくポイントが下がっていた内容から次のことがわかった。

- ① 「運動に対する関心・意欲が低い」
- ② 習い事をしていなければ、授業以外で運動をする機会をもとめない女子児童が多い。
- ③ 体育の学習を楽しんでいる項目においては「まだない」と回答している児童もいる。

今後、土岐市の児童生徒の体力向上を考える時には、学校の教育活動全体で運動に親しみをもつ児童生徒をどのようにして育成していくかが鍵となる。その際に「どのような運動を行うと良いか」よりも ACP のように「運動へと促すきっかけ」をつくっていくことが重要となってくる。

5 取組1「パワーアップ講座」の実施

この講座では課題解決委員が指導者となり、市内小学生を対象に7月31日に実施した。

リズムトレーニング、ボール投げ合戦、ボール当ておに、キンボールを行った。



リズムトレーニングをすることで、「リズム感が養われる」「運動パフォーマンスが向上する」「怪我の予防に

つながる」などの効果がある。

ボール遊びは、全国体力・運動能力、運動習慣調査の結果において、県や全国と比較して数値が劣る「投」の力に焦点をあてて実施をした。

キンボールとは年齢や性別に関わらず誰でも楽しめる生涯スポーツとして広がりを見せているニューススポーツである。グループ編成はできるだけ異学年の他校の児童と一緒にできるように設定した。アイスブレイクを実施すると、参加児童たちはリズムトレーニングの中でグループの仲間とハイタッチをしながら徐々に緊張がほぐれていった。

参加した児童に感想を聞いたところ

「友達とグループが離れて不安だったけど運動を通して友達が増えて良かった。」

「たくさんの運動をやる中で、みんなと仲良く協力しながらできた。」

「キンボールで負けて悔しかったけど、友達ではない子ども話すきっかけができた」

等の感想があった。

取組2 ACP 活用推進研修会との連携

各校の ACP 活用推進担当者がそれぞれの学校で中心となって ACP 活用推進を行っている。6月に行われた第一回土岐市 ACP 活用推進研修会は、ACP を小中学校の教育活動に取り入れ、日常的な実践を通して、児童生徒の運動意欲を高め体力の向上を図ることを目的として行った。

課題解決委員が持ち寄った運動遊び(ACP)の映像や、9月17日に行われる ACP 活用推進研修会での内容の伝達を通して、専門ではない教師の体育指導の負担軽減や、児童生徒が楽しみながら取り組むことのできる運動遊びの実施を広めていく。



令和7年度『児童生徒能力開花応援事業』から

教育研究所では、6月から8月にかけて、8つの児童生徒対象講座を実施することができました。これは、その子の興味関心を広げ、経験を増やしていくことで、自分を知り将来の夢を育むとともに、主体性や個性を伸ばすことを目的とする、そんな事業を目指していきます。ご協力くださった先生がた、ありがとうございました。



社会科課題追究
パワーアップ

- 6/28 科学作品パワーアップ講座
社会科課題追究学習パワーアップ講座
現代詩講座
- 7/31 プログラミング講座
体カパワーアップ講座
- 8/1 イングリッシュキャンプ
- 8/4 中部大学見学会
- 8/7 ものづくり講座

【参加者の声】

- ・課題と、課題に向けて調べたいことを見つけることができた。
- ・学校で計画を立てる前に参加できたのがよかった。



イングリッシュ
キャンプ

ものづくり講座



中部大学見学会

【参加者の声】

- ・大学についてのさまざまなことが知れて満足度が高い見学でした。また応用化学についての疑問をくわしく聞くことができたのでおもしろかったです。
- ・大学にはすごく多くの専門的な学部があることが分かったし、なんとなく大学がどういう場所か知ることができたので良かったです。
- ・体験するコーナーがたくさんあったし、学食もおいしかったので楽しかったです。

中体連全国・東海大会等への出場者

<全国大会>

ソフトテニス 山本 蒼生 (土岐津中3年)

<東海大会>

ソフトテニス 山本 蒼生 (土岐津中3年)

体操競技 勝股 秀羽 (泉中3年)

陸上競技 加藤 琉生 (土岐津中3年) 小島 羽奏 (土岐津中2年)

水泳競技 村上 希愛 (西陵中3年) 勝股 沙耶 (西陵中3年) 伊藤 ひまり (西陵中2年)

福重 龍靖 (西陵中1年) 三好 悠雅 (駄知中1年) 宮下 秀佑 (泉中3年)

笹岡 優楽 (泉中3年) 東 桔平 (泉中3年) 藤井 陽太 (泉中3年)

佐藤 領 (泉中3年) 宮嶋 秀門 (泉中3年) 長谷川 大夢 (泉中3年)

磯村 駿斗 (泉中3年) 酒井 琉成 (泉中3年)

吹奏楽 大塚 柊太 (泉中3年) 高橋 愛子 (泉中3年) 澤田 蒼生 (泉中3年)

岩田 朔也 (泉中3年) 加藤 天澄 (泉中3年) 高田 みちる (泉中3年)

和田 紗幸 (泉中2年) 寺澤 采音 (泉中2年) 伊佐治 真帆 (泉中2年)

伊藤 渚彩 (泉中2年) 岩島 舞乃 (泉中2年) 小川 海路 (泉中2年)

日比野 柚那 (泉中1年) 渡邊 恵紘 (泉中1年) 木村 瞭元 (泉中1年)

小島 瑠夏 (泉中1年) 瀧 丹梨 (泉中1年)

がんばりに拍手

====9月7日(日)表彰式を行いました====

土岐市児童生徒科学作品展 金賞受賞者

つちもと げん (土岐津小1年) はやし きさ (泉小1年) みやぎ かいり (泉西小1年)

みやぎ とうり (泉西小1年) 安田 匡志 (土岐津小2年) 奥村 嘉仁 (土岐津小2年)

かとう じん (泉西小2年) 土本 和佳 (土岐津小3年) ほりお みちひろ (泉小3年)

ほりお のぶひろ (泉小3年) 佐橋 咲映 (土岐津小4年) 宮地 亮輔 (土岐津小4年)

かとう 広大 (土岐津小4年) 井上 真那 (泉小4年) 伊納 康晴 (肥田小5年)

三宅 里奈 (肥田小5年) 土本 まゆ (泉小5年) 能見 綜一 (土岐津小6年)

堀 ことと (駄知小6年) 加藤 由宇 (泉西小6年) 澤田 剛 (泉中3年)

土岐市社会科課題追究学習作品展 入賞者

【最優秀賞】松原 紅乃花 (土岐津小4年) 【優秀賞】若子 桜夕 (泉西小4年) 小山 悠琉希 (土岐津中1年)

土岐市発明くふう展 入賞者

<くふうの部>

【土岐市長賞】井上 寛人 (泉小4年) 【土岐市議会議長賞】ふせや いつき (駄知小3年)

【発明協会土岐支会長賞】とみた なつき (妻木小1年)

【土岐市産業文化部長賞】佐長谷 光紀 (駄知中1年) 【土岐市教育長賞】伏屋 千羽耶 (駄知小5年)

【奨励賞】長江 侑飛 (駄知小6年) 富田 莉王 (妻木小6年) 佐長谷 有香 (駄知小5年)

堀内 羽菜 (泉西小4年)

<絵画の部>

【土岐市長賞】福岡 彩葉 (駄知小6年) 【土岐市議会議長賞】福岡 剛毅 (駄知中2年)

【発明協会土岐支会長賞】林 瞬夢 (泉西小4年) 【土岐市産業文化部長賞】栗本采空 (泉西小3年)

【土岐市教育長賞】堀 ことと (駄知小6年)

【奨励賞】はしぐち さくら (泉西小1年) 加納 隼大 (妻木小4年) 野村 怜永 (土岐津小5年)

楓 智尋 (肥田小5年)

土岐市読書感想文コンクール 金賞受賞者

さばし あおい (土岐津小2年) 林 さくら (肥田小2年) こうの りひと (泉西小1年)

わたなべ めいさ (妻木小4年) 近藤 ゆわ (濃南小3年) 小林 あおい (肥田小3年)

大槻 向陽 (土岐津小5年) 長江 侑飛 (駄知小6年) 楓 葵結 (肥田小6年)

山崎 菜耶 (西陵中2年) 西尾 彩 (肥田中3年) 高椿 ひまり (泉中2年)

食の課題追究作品「オリジナル給食料理」コンクール 入賞者

【最優秀賞】鈴木 汰知 (駄知中1年)

【優秀賞】土岐 文葉 (濃南中2年) 田中 仁愛 (濃南中2年)

後藤 紘誠 (駄知中2年) 長瀬 莉空 (泉中1年) 水野 智浩 (泉中3年)



「心にひびく言葉」

「雪の結晶は、天から送られた手紙である」

肥田中学校 教頭 山岸 秀俊



「雪の結晶は、天から送られた手紙である」

世界で初めて人口雪を作った北海道大学理学部の中谷宇吉郎博士が、雪の結晶研究の道のりを書き記した著書「雪」の最後に述べられている言葉です。

小学生の頃、家の本棚に入っていたこの本をたまたま手にとり目にした際、その写真の美しさやスケッチの精巧さに魅せられ、漢字の読みや意味を調べながら夢中で文章を読みました。その後、書いてある内容をまねて庭先に降る雪をスライドガラスにとり、溶けゆく結晶を顕微鏡で観察したとき、天と地をつなぐ儂い手紙を受け取った気がしました。今思えば、様々な自然現象と触れ合うことの楽しさを知るきっかけになったこの言葉との出会いは、自然科学に興味をもつことにつながり、理科教師にな

ったのだと思います。

今の小中学生は、スマートフォンやタブレットの使用が当たり前になり、自然に触れ合う経験が少なくなっています。自然の中で遊び、学び、五感を使って世界を体験することは、心の成長にとって欠かせません。雪はただの氷の結晶ではなく、宇宙からのささやかな贈り物。この言葉を反芻するたび、心に澄んだ冬景色が広がり、新たな想像力の扉がひらかれるのです。

凍てつく冬の空から静かに舞い落ちる雪片一つ一つに、誰かの想いが込められているかのような温かさを感じるこの言葉のように、自然と触れ合う楽しさと感動を、授業を通して子どもたちにも伝えていきたいと思っています。

掲 示 板



新しいALTの紹介 **Welcome to Toki!**

イアン パトリック エドワーズさん (イアン先生)

Ian Patrick Edwards

初めまして！イアン・エドワーズと申します。アメリカ合衆国のオレゴン州から来ました。ワシントン州のウィットマン大学で日本語を勉強して、ハヶ月、京都の同志社大学に留学しました。本、アート、そしてゲームが趣味です。どうぞよろしくお願ひ致します。

It's nice to meet you! My name is Ian Edwards—feel free to call me Ian. I'm from Oregon in the USA. I studied Japanese language and culture at Whitman College in Washington, and studied for eight months at Doshisha in Kyoto. I like books, art, and video games.

お世話になる学校・園

土岐津小学校

土岐津中学校

肥田小学校

肥田中学校

肥田こども園